

1. インドの言語について

- (1) インドは多言語国家。主な言語は 19。
- (2) 「連邦公用語」と北インド一帯の諸州の「州公用語」はヒンディー語。
- (3) ヒンディー語は北インドの共通語であり、話者人口は推定約 4 億人。

2. 北インドでは、ことわざについてどのように考えられているか。

——— ことわざ辞典の編纂者たちの序文から。

- (1) 生活の知恵の凝縮されたもの。
- (2) 文学の修辞法の 1 つ。
- (3) 社会の文化的価値と教訓が表現されたもの。
- (4) 一般大衆（学校教育を受けられない人々）の社会生活の指針。

3. ことわざの振り

(1) A. 元のことわざ

太陽が届かない所にも詩人は到達する

जहाँ न रवि पहुँचे, वहाँ पर कवि पहुँचे ।

jahan na ravi pahunche, wahan par kavi pahunche.

-----太陽の光が届かないような所にも詩人は想像力によって行くことができる。

つまり、詩人の想像力は非常に優れている。

B. 振り

君の容姿の影までは太陽の光も届かないし、詩人も到達しない。

तेरे रंग-रूप की छाया तक न रवि पहुँचे न कवि पहुँचे ।

tere rang-rup ki chhaya tak na ravi pahunche na kavi pahunche.

-----想像力が優れている詩人も想像できないほど、君は美しい。

「真・善・美」(1978)

(2) A. 元のことわざ

穀物の 1 粒 1 粒に食べる人の名前が書いてある

दाने दाने पर लिखा है खाने वाले का नाम ।

dane dane par likha hai khane wale ka nam.

-----運がなければ穀物の 1 粒といえども手に入らないが、運があればどんなに

邪魔が入ってもいずれ手に入る。

誰でも皆、自分の運命に定められているものを食べる。

B. 振り

新聞の1ページ1ページに食べる者の名前が書いてある

पन्ने पन्ने पर लिखा है खाने वाले का नाम ।

panne panne par likha hai khane wale ka nam.

-----食べさせられた新聞紙に僕の名前が書いてあったということなのか。

「赤帽」(1983)

(3) A. 元のことわざ

牛乳は牛乳に、水は水に。

दूध का दूध, पानी का पानी ।

dudh ka dudh, pani ka pani.

-----牛乳の利益は牛乳のもので、水の利益は水のもの。

つまり、明らかで公正な判断をすること。物事をはっきりさせること。

B. 振り

唾は唾にそして水は水に。

थूक का थूक और पानी का पानी ।

thuk ka thuk aur pani ka pani.

-----元のことわざの「牛乳」を「唾」に入れ替えて、

意味は元のことわざと同じで「物事をはっきりさせる」。

「僕がついてるよ」(2004)

(4) A. 元のことわざ

1粒のヒヨコ豆はかまどを砕けない。

अकेला चना भाड़ नहीं फोड़ सकता ।

akela cana bhaR nahin phoR sakta.

-----人は1人では、何事もなし得ないものだ。

B. 振り

1粒のヒヨコ豆もかまどを砕ける。

अकेला चना भी भाड़ फोड़ सकता है ।

akela cana bhi bhaR phoR sakta hai.

-----1人でも不断の努力で事をなし得る。

雑誌記事“インディアトゥデー (ヒンディー語版)” 2008,1,23